

2025年度 環境経営レポート



都市産業株式会社

(対象期間: 2025年4月～2026年3月)

発行日 : 2026年7月8日

改訂日 : 2026年8月7日

目次

1. 事業の概要及び認証・登録範囲	1
2. 環境経営方針	2
3. 実施体制	3
4. 許可の内容	4~5
5. 施設等の状況	6~7
6. 処理実績	7
7. 環境経営目標と目標対実績と判定、および、試行期間後の目標	8
8. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	9
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	10
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	10
11. 処理実績	11

1. 事業の概要及び認証・登録範囲

(1) 法人に関する事項

事業所名 都市産業株式会社
所在地 〒757-0216 山口県宇部市大字船木61番41
設立年月日 昭和46年11月25日
資本金 1,500万円
代表者名 代表取締役 中村 光
環境管理責任者 藤田 勲
担当者 水本 翔太
連絡先 mizumoto @ toshisangyo.co.jp
TEL 0836-83-8347

事業の内容 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・一般廃棄物の中間処理業
産業廃棄物処理関連のコンサルティング・海洋汚染廃油処理事業
各種ドラム缶等の各種販売、タンク・ピット堆積物抜取清掃等の各種工事

事業の規模

	単位	令和5年度	令和6年度	令和7年度
売上高	百万円	2,189	2,245	1,861
従業員数	人	69	69	67
事業場面積	m ²	73,301	73,301	73,301

(従業員数には役員・社外取締役含)

事業年度 4月1日～翌年3月31日

(2) 認証・登録範囲 全組織・全活動

- ①事業活動 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬及び処分(中間処理及び最終処分)
コンサルティング業(廃棄物処理関連)、ドラム缶等の販売
タンク・ピットの清掃業務
- ②対象事業所 本社・工場



破碎施設



焼却施設



破碎・圧縮固化施設



油水分離施設



切断施設



圧縮減容施設

環境経営方針

基本理念

都市産業株式会社は地球環境保全活動を最重要課題と位置付け、産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を通じて環境負荷の低減に貢献します。環境負荷の低減では、当社の社訓である【プロは栄え、アマは減びる】を実践し、お客様のニーズに沿った適正処理を実施するため、当社だけではなく、当社営業ネットワークを通じて行ってまいります。また、処理だけではなくサーマルリサイクル、マテリアルリサイクルにも注力し、お客様の要求される品質に対して満足頂けるよう継続的改善に努めてまいります。都市産業株式会社は環境負荷の低減に貢献し、お客様や地域社会から信頼される【ONLY ONE】であるために日々邁進してまいります。

環境行動指針

環境マネジメントシステムを確立し、運用することによって、環境経営の継続的改善を誓約します。

1. 当社に適用される環境関連法規・条例等を遵守します。
2. 環境経営目標の策定と見直しを行い、継続的改善を行います。
3. 事業活動に係る環境負荷について、次の項目を重点的に実施します。
 - ① CO2の排出を抑制します。
 - ② 節水に努め、水使用量を削減します。
 - ③ 再生可能な資源を利用します。
 - ④ 化学薬品の管理を徹底します。
 - ⑤ エネルギー創出の取組を実施します。
 - ⑥ 適正処理のための仲介業務を行います。
 - ⑦ DXを推進します。
4. 地域とのコミュニケーションを図り、地域社会へ貢献活動を行います。
5. この環境経営方針は全従業員へ周知するとともに、環境教育を行い環境への意識向上を図ります。
6. この環境経営方針は広く一般に公開します。

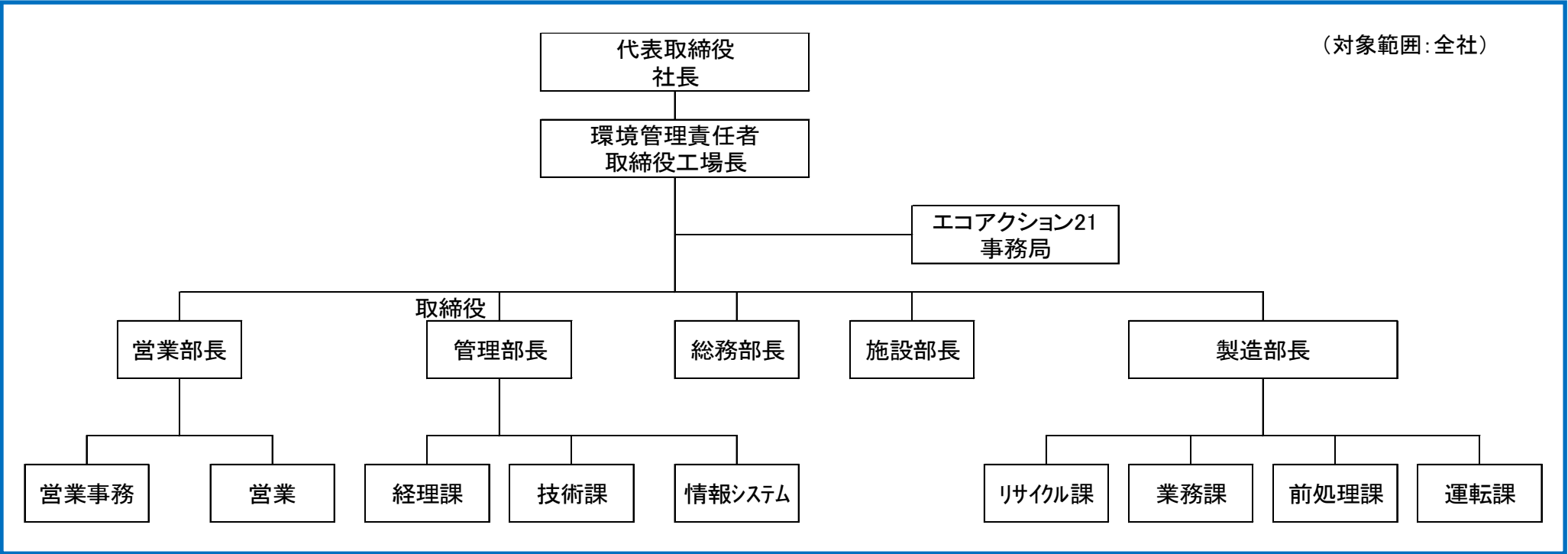
制定日：2005年4月18日

改訂日：2026年4月1日

都市産業株式会社
代表取締役社長 中村 光

3. 事業の概要、対象範囲

2026年6月1日現在



責任者	役割・責任・権限
代表取締役	・環境経営に関する統括責任、環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等を準備 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境経営目標、環境経営活動計画書、環境関連法規等及び関連する書類等の確認
EA21事務局	・環境経営管理責任者の補佐、エコアクション21の事務局 ・環境経営活動レポートなどの書類の作成、環境経営目標、環境経営活動の実績集計、データ解析 ・自社HP及びさんぱいくんの更新
各部門の責任者 及び従業員	・環境経営システムの実施、自部門の是正処置、予防処置報告書を作成（原因究明、対策に実施） ・緊急事態への対応のための訓練 ・監査資料ワークシートの更新、作業標準書の作成及び運用管理

4. 許可の内容 ※

(1) 産業廃棄物処分業許可

許可番号	山口県 第03546003258号	
許可の年月日	令和5年1月12日	
許可の有効期限	令和11年10月31日	
事業計画の内容	主として焼却施設による中間処理を行う。	
事業の範囲		
事業の区分	処理施設の種類	処理能力
中間処理	圧縮減容	12t/日(10時間)
	焼却 (分解を含む)	49.7t/日(24時間)＜廃プラスチック類＞
		98.4t/日(24時間)＜汚泥＞
		82.4t/日(24時間)＜廃油＞
		150.0t/日(24時間)＜その他の産業廃棄物＞
	破碎	15t/日(10時間)＜廃プラスチック類＞
		8t/日(10時間)＜木くず＞
	破碎・圧縮固化	4.48t/日(8時間)＜廃プラスチック類＞
1.52t/日(8時間)＜汚泥、鉋さい＞		
0.48t/日(8時間)＜紙くず＞		
0.16t/日(8時間)＜金属くず、ガラス陶 ^{注1)} 、燃え殻、繊維くず、ゴムくず、ばいじん＞		
油水分離	31t/日(24時間)	
切断	3t/日(10時間)	
最終処分	管理型処分場	面積:17,421㎡、容量:81,122㎡

処理施設	圧縮減容	焼却	破碎	破碎・ 圧縮固化	油水分離	切断	管理型
燃え殻		●		●			
汚泥		●		●	●		
廃油		●			●		
廃酸		●			●		
廃アルカリ		●			●		
廃プラスチック類	●	●	●	●		●	
ゴムくず	●	●	●	●		●	
金属くず		●		●			
ガウ陶 ^{注1)}		●		●			●
鉋さい		●		●			
がれき類		●					
ばいじん		●		●			
紙くず	●	●	●	●		●	
木くず	●	●	●			●	
繊維くず	●	●	●	●			
動植物性残さ		●					
動物系固形不要物							
動物のふん尿		●					
動物の死体							
13号廃棄物							

注1) ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

(2) 特別管理産業廃棄物処分業許可

許可番号	山口県 第03576003258号	
許可の年月日	令和4年10月28日	
許可の有効期限	令和11年5月12日	
事業計画の内容	主として焼却施設による中間処理を行う。	
事業の範囲		
事業の区分	処理施設の種類	処理能力
中間処理	焼却 シアン化合物 の分解	49.7t/日(24時間)＜廃プラスチック類＞
		98.4t/日(24時間)＜汚泥＞
		150.0t/日(24時間)＜その他の産業廃棄物＞
	油水分離	12t/日(24時間)＜シアン化合物の分解＞
		31t/日(24時間)

処理施設		焼却	分解	油水分離
許可品目	燃え殻			
	汚泥	●	●	●
	廃油	●		●
	廃酸	●		●
	廃アルカリ	●	●	●
	鉱さい			
	ばいじん			
	感染性廃棄物	●		
	廃PCB等			
	PCB汚染物			
	PCB汚染物処理物			
	廃水銀等			
	指定下水汚泥			
	廃石綿等			

(3) 産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号	山口県 第03506003258号	
許可年月日	令和4年12月14日	
有効期限	令和11年10月30日	
積替保管	無	
許可品目	燃え殻	
	汚泥	●
	廃油	●
	廃酸	●
	廃アルカリ	●
	廃プラスチック類	●
	ゴムくず	●
	金属くず	●
	ガラス陶 ^{注2)}	
	鉱さい	
	がれき類	
	ばいじん	
	紙くず	●
	木くず	●
	繊維くず	
	動植物性残さ	●
	動物系固形不要物	
	動物のふん尿	
	動物の死体	
	13号廃棄物	

注2) ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

※優良認定制度認定事業者

(4) 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号	山口県 第03566003258号	
許可年月日	令和4年10月21日	
有効期限	令和11年6月22日	
積替保管	あり	
許可品目	燃え殻	
	汚泥	●
	廃油	●
	廃酸	●
	廃アルカリ	●
	鉱さい	
	ばいじん	
	感染性廃棄物	
	廃PCB等	
	PCB汚染物	
	PCB汚染物処理物	
	廃水銀等	
	指定下水汚泥	
	廃石綿等	

※優良認定制度認定事業者

(積替え保管施設 ― 本社工場内)

保管面積	60 m ²
保管上限	4 t
積み上げ高さ	屋内保管
廃棄物の種類	汚泥、廃酸、廃アルカリ

5. 施設等の状況 ※

(1) 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬車両

車種	最大積載量	台数	備考
ライトバン	350 kg	1 台	ハイブリッド車両
ライトバン	350 kg	1 台	
ライトバン	400 kg	5 台	
軽トラック	350 kg	1 台	

(積替え保管施設 — 本社工場内)

保管面積	保管上限	積替え保管を行う廃棄物の種類
60 m ²	4 t	汚泥、廃酸、廃アルカリ

(2) 中間処理施設/最終処分施設(処理工程図は次頁参照)

① 中間処理

施設の種類	圧縮減容施設
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず
処理能力	12 t/日(10時間)
処理方式	電動式全自動横型プレス機

施設の種類	破碎施設
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず
処理能力	15 t/日(10時間)＜廃プラスチック類＞ 8 t/日(10時間)＜木くず＞
処理方式	一軸破碎機

施設の種類	油水分離
処理する廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ
処理能力	31 t/日(24時間)
処理方式	攪拌機付き油水分離槽

施設の種類	切断
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、ゴムくず
処理能力	3 t/日(10時間)
処理方式	バックホウ取付型切断機

施設の種類	焼却施設(シアン化合物の分解施設含む)
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガウ陶 ^{注1)} 、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ 紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、鋳さい、がれき類 動物のふん尿、ばいじん
処理能力	49.7t/日(24時間)＜廃プラスチック類＞ 98.4t/日(24時間)＜汚泥＞ 82.4t/日(24時間)＜廃油＞ 150.0t/日(24時間)＜その他の産業廃棄物＞ ※混焼能力 147.6t/日(24時間)
処理方式	向流式ロータリーキルン

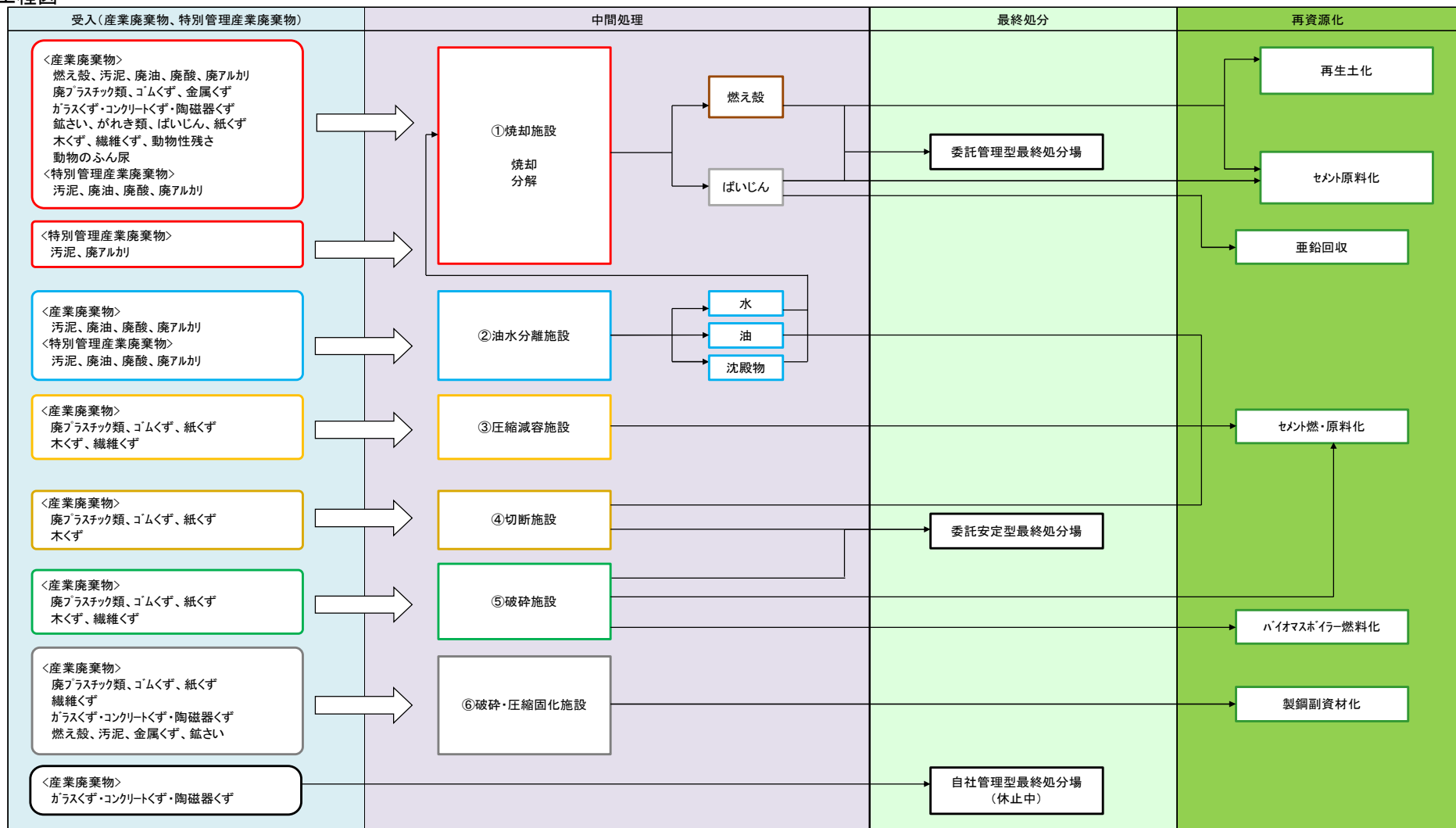
施設の種類	破碎・圧縮固化施設
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック類、金属くず、ガウ陶 ^{注1)} 、燃え殻、汚泥(無機性に限る。)、紙くず 繊維くず、ゴムくず、鋳さい、ばいじん
処理能力	4.48 t/日(8時間)＜廃プラスチック類＞ 1.52 t/日(8時間)＜汚泥、鋳さい＞ 0.48 t/日(8時間)＜紙くず＞ 0.16 t/日(8時間)＜金属くず、ガウ陶 ^{注1)} 、燃え殻、繊維くず、ゴムくず、ばいじん＞
処理方式	二軸破碎機 ⇒ 一軸破碎機 ⇒ 減容成型機

(2) 最終処分施設

処理施設の種類	管理型最終処分場
処理する廃棄物の種類	ガウ陶 ^{注1)}
埋立面積	17,421 m ²
全埋立容量	81,122 m ³

注1) ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

処理工程図



6. 処理実績 ※

廃棄物処理業：受託した廃棄物処理実績

	2025年4月～2026年3月	試行期間2026年4月～6月
産業廃棄物収集運搬量	0.46 t	0.02 t
産業廃棄物中間処理量	17,424 t	3,913 t
特別管理産業廃棄物収集運搬量	0.65 t	0.00 t
特別管理産業廃棄物中間処理量	7,760 t	1,456 t
最終処分場残容量	57,251 m ³	57,251 m ³

※2025年度の詳細な処理実績は11ページに記載しています。また端数処理上、数値が合わない場合があります。

7. 環境経営目標と目標対実績と判定、および、試行期間後の目標

環境経営目標		単位	2025年度		試行期間（2026年度 4月～6月）			目標		
			4月～6月	基準年度 7月～3月	目標	実績	判定	2026年度	2027年度	2028年度
二酸化炭素排出量の削減※ ¹		kg-CO ₂ /t	268	266	264 (-1%)	279 (+6%)	×	264 (-1%)	261 (-2%)	258 (-3%)
	電力※ ²	kWh/t	131	174	172 (-1%)	177 (+3%)	△	172 (-1%)	170 (-2%)	169 (-3%)
	ガソリン※ ³	km/L	14.47		14.61 (+1%)	15.50 (+6%)	○	14.50 (+1%)	14.65 (+2%)	14.79 (+3%)
	軽油※ ⁴	L/t	2.42	2.40	2.38 (-1%)	2.70 (+13%)	×	2.38 (-1%)	2.36 (-2%)	2.33 (-3%)
	灯油※ ⁵	L	493		0 -	0 (-)	○	488 (-1%)	483 (-2%)	478 (-3%)
	重油※ ⁶	L/hr	60	143	141 (-1%)	140 (-1%)	○	141 (-1%)	139 (-2%)	138 (-3%)
	購入油※ ⁷	L/hr	270	189	187 (-1%)	238 (+27%)	×	186 (-1%)	184 (-2%)	182 (-3%)
	液化石油ガス	kg	2,199		544 (-1%)	524 (-4%)	○	2177 (-1%)	2155 (-2%)	2133 (-3%)
産業廃棄物	再資源化率※ ⁸	%	2.97	3.03	3.06 (+1%)	2.53 (-17%)	×	3.06 (+1%)	3.09 (+2%)	3.12 (+3%)
	最終処分量※ ⁹	%	15.3	10.9	10.8 (-1%)	17.8 (+65%)	×	10.8 (-1%)	10.7 (-2%)	10.5 (-3%)
水使用量の削減	上水使用量※ ¹⁰	m ³	3,199		1056 (-1%)	972 (-8%)	○	3167 (-1%)	3135 (-2%)	3103 (-3%)
化学薬品の管理			適正に管理		適正に管理	適正に管理	-	適正に管理	適正に管理	適正に管理
エネルギー創出	太陽光発電(売電)	kWh	393,330		適正に管理	113,763	-	適正に管理	適正に管理	適正に管理
	バイナリー発電(自家消費)	kWh	-	46,729		12,440	-			
参考	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,769,278	4,951,347	-	1,495,486	-	-	-	-
	焼却炉稼働時間	hr	1,488	3,682	-	1,044	-	-	-	-
	処理量	t	6,592	18,593	-	5,369	-	-	-	-
	再資源化量	t	196	563	-	136	-	-	-	-
	最終処分量	t	3,030	1,009	-	2,021	-	-	-	-

●2025年度は旧炉から新炉に更新した。そのため、実績値が焼却炉に関係する項目は、記載欄を区分し、新炉は色塗りして、各々実績値を記載している。

したがって、基準値は、新炉稼働時の実績値を基に試行期間(3ヶ月)について、1%削減して目標値とした。なお、ガソリン、灯油等焼却炉切替の影響を受けない項目は通年の実績値で評価した。

●判定:○ 100%以上達成、△ 95%以上達成、× 95%未満

※1 二酸化炭素排出量÷処理量で評価した。

※2 電力のCO₂排出係数は、2024年度の中国電力(株) 調整後
排出係数0.484kg-CO₂/kWhを使用した。

また、電気使用量÷処理量で評価した。

※3 走行距離÷ガソリン使用量(営業車)で評価した。

※4 軽油使用量÷処理量で評価した。

※5 灯油の2025年度の上期実績(0)を基準値として目標値(0)
を設定した。

※6 重油と再生重油使用量÷焼却炉稼働時間で評価した。

※7 購入油使用量÷焼却炉稼働時間で評価した。

※8 再資源化量÷処理量で評価した。

※9 最終処分量÷処理量で評価した。

※10 4月分と6月分の実績は請求期間の都合上4か月分の使用量と
なるため、目標を4か月分の数値で設定した。

8. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

項目		目標達成状況	取組内容	取組結果とその評価、次年度の取り組み内容		
二酸化炭素排出量の削減	未達成 (+6%)					
	電力	未達成 (+3%)	稼働停止時には不使用の電気機器を停止する。	○	継続	休転中の影響もあるため評価継続する。
	ガソリン	達成 (+6%)	急発進や急加速をせずエコドライブを励行	○	継続	安全運転に注意し、エコドライブを実行できている。
			効率的な移動ルートの走行	○	継続	計画をもって移動ができており継続する。
	軽油	未達成 (+13%)	アイドリングストップ	○	継続	季節変動の影響もあるため評価継続する。
			場内速度の遵守	○	継続	安全運転を実行できており継続する。
	灯油	達成 (-)	配管経路の見直し	○	継続	配管経路を適宜見直すことができており継続する。
	重油	達成 (-1%)	投入汚泥の燃焼性を調整する	○	継続	調整をかけ、投入することができており継続する。
	購入油	未達成 (+27%)	燃料系の探索	○	継続	一時的な廃棄物不足のため評価継続する。
	液化石油ガス	達成 (-4%)	ガスのつけっぱなし防止の徹底	○	継続	適切に管理ができており継続する。
節度を持ったシャワーの利用			○	継続	節度を守ることができており今後も継続する。	
産廃	再資源化率	未達成 (-17%)	破碎・圧縮固化施設の安定稼働 再資源化の推進	△ ○	継続 継続	部品交換後の稼働状態の注視が必要である。 滞りなく実行されている。
	最終処分量	未達成 (+65%)	再資源化先の維持・拡大	○	継続	検討はしているものの、試行錯誤が必要である。数値の変動が激しいため通年での評価をする。
水	上水使用量	達成 (-8%)	節水の呼びかけシール掲示	○	継続	節水を呼び掛けることができたので継続する。
			凍結防止の実施(冬期)	-	継続	冬期に実施予定。
化学薬品の管理		- (-)	適正に管理	○	継続	適正に管理することができたので継続する。
エネルギー創出 (太陽光発電、バイナリー発電)		- (-)	発電量の把握	○	継続	太陽光発電施設や、バイナリー発電施設の補修対応をしており継続する。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

主な環境関連法などおよび遵守評価結果は、下表の通りです。

環境関連法規等	遵守評価	環境関連法規等	遵守評価	環境関連法規等	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	遵守	騒音規制法	遵守	消防法	遵守
大気汚染防止法	遵守	海洋汚染防止法	遵守	浄化槽法	遵守
水質汚濁防止法	遵守	毒劇法	遵守	山口県循環型社会推進条例	遵守
ダイオキシン類対策特別措置法	遵守	フロン排出抑制法	遵守	山口県公害防止条例	遵守
PRTR法	遵守	道路交通法	遵守	温対法	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、特定されたすべて法規等が遵守されていることを確認しました。

なお、環境関連法規等への違反、訴訟、環境上の苦情等ありませんでした。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2025年度は、事業運営において大きな転換点となる一年でした。

とりわけ新焼却炉への更新は、当社の将来を見据えた重要な投資であり、事業基盤の強化に大きく寄与するものです。

このような設備更新という変革の只中にあっても、環境負荷の低減に対する取り組みを着実に継続していくことが、当社の責務であると認識しています。

今後も、従業員が一丸となって取り組みを推進し、安全かつ安定した操業の実現を目指してまいります。

また、基準値を見直し、試行を実行しました。

一部未達成の項目もあったので、取組を強化してください。

一方、稼働状況による変動が大きい項目があることも分かったため、引き続き注視し、見直しを含め評価を行ってください。

11. 処理の実績(2025年度)

処理方法等		廃棄物等種類	処理量(t)	
産業廃棄物	収集運搬	産廃	汚泥	0.00
			廃油	0.07
			廃酸	－
			廃アルカリ	0.00
			廃プラスチック類	0.38
			紙くず	－
			木くず	－
			動植物性残渣	－
			ゴムくず	－
			金属くず	－
			ガラ陶くず※	－
			産廃 計	0.46
		特管	汚泥	－
			廃油	0.22
	廃酸		0.42	
	廃アルカリ		0.01	
			特管 計	0.65
	収集運搬量合計			1.10

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法	処理量(t)	
産業廃棄物	中間処理	産廃	燃え殻	焼却、破碎・圧縮固化	1
			汚泥	焼却、油水分離、破碎・圧縮固化	3,318
			廃油	焼却、油水分離	3,734
			廃酸	焼却、油水分離	2,214
			廃アルカリ	焼却、油水分離	5,608
			廃プラスチック類	焼却、破碎、圧縮減容、切断、破碎・圧縮固化	2,198
			紙くず	焼却、破碎、圧縮減容、切断、破碎・圧縮固化	5
			木くず	焼却、破碎、圧縮減容、切断	95
			繊維くず	焼却、破碎、圧縮減容、破碎・圧縮固化	0
			動植物性残渣	焼却	5
			ゴムくず	焼却、破碎、圧縮減容、切断、破碎・圧縮固化	0
			金属くず	焼却、破碎・圧縮固化	209
			ガラ陶くず※	焼却、破碎・圧縮固化	36
			鉱さい	焼却、破碎・圧縮固化	0
			がれき類	焼却	2
			動物のふん尿	焼却	0
			ばいじん	焼却、破碎・圧縮固化	0
			産廃 計		17,424
		特管	汚泥	焼却、油水分離、分解	578
			廃油	焼却、油水分離	4,961
	廃酸		焼却、油水分離	149	
	廃アルカリ		焼却、油水分離、分解	2,011	
	感染性廃棄物		焼却	62	
	特管 計			7,760	
	うち安定型埋立	廃プラスチック類		187	
	うち再資源化等	【特管】汚泥	再生利用	149	
		廃プラスチック類	焼成・焼却、フォーミング抑制材	369	
木くず		焼成・焼却、破碎	93		
再資源化等量小計			610		
中間処理合計				25,185	
中間処理後の 産業廃棄物	最終処分	燃え殻	管理型最終処分場(委託)	576	
		ばいじん	管理型最終処分場(委託)	2,342	
		廃プラスチック類	安定型最終処分場(委託)	187	
		最終処分量小計		3,105	
	再資源化	燃え殻		135	
		ばいじん		13	
		汚泥	再生利用	149	
		廃プラスチック類	焼成・焼却、フォーミング抑制材	369	
		木くず	焼成・焼却、破碎	93	
		再資源化等量小計		759	
	中間処理後処分量合計				3,864

※ガラ陶くず・・・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず